



©Yuki Asada

肌に優しいユーカリの石けん

1994年、ルワンダで起きた大量虐殺。ツチ族とフツ族の対立により、罪もなく命を奪われた人は約100万人といわれる。大切な人を失った人々の心にも深い傷を残した。

首都キガリから車で約1時間。大量虐殺の始まりともいわれるブゲセラ郡ニヤマトでは、多くの女性たちが夫、子どもを目の前で失い、いまだトラウマから回復できずにいた。そこで、地元NGOと協働で心のケアに取り組んでいるのが、青年海外協力隊の笠間舞さん。ものづくりを通じて生きる喜びを取り戻してもらえればと、昨年からお土産用の石けんづくりを始めた。

材料は村のあちこちに生えているユ

ーカリの葉からとれるエッセンシャルオイル（精油）。最初は技術がないからと後ろ向きだった女性たちも、始めてみるとどんどん技術を上達させ、今では民族の壁を超えて皆で協力し合うまでになった。「そんな彼女たちの姿を見ることができてうれしい」と笠間さん。天然由来で肌に優しい石けんは、首都の土産物屋やホテルなどで人気のひと品に。ラッピングにはアフリカの女性が身にまとう鮮やかな布が使われている。

悲しみを乗り越えようと立ち上がった女性たち。石けんに込められたその決意が、一つ一つの泡となって私たちの肌を優しく包みこんでくれる。



商品として販売するためには品質管理が重要。一つ一つ、同じ形になるように石けんを固める

★石けんを5人にプレゼント!→詳細は38ページへ

